

(55)

氏名(生年月日)	セキ 関	グチ 口	サチ 幸	コ 子
本籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第589号			
学位授与の日付	昭和58年1月21日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	重複奇形児の解剖学的研究 ——頭胸結合重複奇形児の血管発生——			
論文審査委員	(主査)教授 串田つゆ香 (副査)教授 飯沼 守夫, 教授 梶田 昭			

### 論文内容の要旨

#### 研究目的

頭胸結合重複奇形児の血管発生過程については、Schwalbe(1906), Corsy(1931), Zimmermann(1967), および Herring(1981)らの考察があるが、具体的な形態学的指標は明らかにされていない。

本研究においては、頭胸結合重複奇形児の循環系および反回神経の走行を解剖学的に観察し、頭胸結合重複奇形児における血管発生過程を考察した。

#### 研究対象および研究方法

対象は、約10胎月の男児2例、女児1例の計3例のヒト胎児頭胸結合重複奇形児である。分類の内訳は、単対称性頭胸結合重複奇形児2例と、複対称性頭胸結合重複奇形児1例である。実体顕微鏡下において、上記3例の循環系と、反回神経とを剖出した。

#### 結果および結論

1) 3例の計6側の心臓は、結合2児の2次面(2児の異名半側同士の癒合により形成される面)に平行に胸腔内に存在するが、下行大動脈は、結合2児の脊椎に平行に位置する。

2) 各例において、2本の大動脈を連絡する1本の交通動脈が認められる。

3) 結合による血管走行の異常の他に、大卵円孔(6側)、心室中隔欠損(2側)、左上大静脈の遺残(3側)、半月弁異常〔2弁性大動脈弁(3側)、2弁性肺動脈弁(3側)〕および肺静脈還流異常(1側)が認められる。

4) 反回神経は、各例において、萎縮顔面側の右のものは血管を介さず反回し、正常顔面側の右のものは上記の交通動脈を反回する。また、左側の反回神経は、1側を除き5側は動脈管を反回する。

5) 反回神経の反回血管から推測される血管発生は、結合2児の内の1児の右第4大動脈弓動脈と右背側大動脈の残存、他の1児の右第4大動脈弓動脈の消退が考えられる。

以上より、頭胸結合重複奇形児の血管系は、反回神経の走行を基盤にして観察した結果、統一のとれた発生過程が推測された。また、正常の血管発生過程において認められる左側優位は、結合により形成される2次面上においても保たれていることが示唆された。

### 論文審査の要旨

頭胸結合重複奇形児の血管系は、反回神経の走行を基盤にして観察した結果、統一のとれた発生過程が推測された。また、異常環境下における血管発生の適合形態を示唆する結果も得られた。学術上価値ある論文と認める。

**主論文公表誌**

重複奇形児の解剖学的研究

—頭胸結合重複奇形児の血管発生—

東京女子医科大学雑誌 第52巻 第10・11号  
1363～1375頁（昭和57年11月25日発行）

**副論文公表誌**

- 1) 制癌剤と放射線の併用療法.  
内科 39（6）958～962（1976）
- 2) ヒト胎児重複奇形児の解剖学的研究—複対称性  
頭胸結合重複奇形児の外形および結合部諸筋の

所見—

東女医大誌 51（1）1～10（1981）

- 3) ヒト胎児重複奇形児の解剖学的研究  
—複対称性頭胸結合重複奇形児の内臓の位置関係について—  
東女医大誌 51（7）647～653（1981）
- 4) ヒト胎児重複奇形児の解剖学的研究—頭胸結合  
重複奇形児4例の肺臓所見—  
東女医大誌 52（4）737～744（1982）